



小平選手松本へ

4月2日聖火リレーが到着した。松本城お城口を午後7時16分にスタートした聖火は、

駅前通り〜本町通り〜大名町通り〜太鼓門からお城の中を通り、7時43分にセレブレーション(最後に行われる聖火到着祝いのイベント)会場に到着した。
我が家の前(城西花壇に隣接する駐車場)であり、また最終ランナーが小平選手とあって、周囲には大勢の見物人が集まった。
当初はこの広い駐車場であり十分よく見えるなあと思っていたが、当日はテントがいくつも張られ、南向きのテントの中でセレブレーションが行われた。
小平選手の望遠撮影も出来たので退散した。

後日、不要な写真の整理中、なんと小平選手の写真に指が触れ、削除されてしまった。

小平選手を直接見たのは初めてだったが、オリンピック金メダリスト、世界一の選手であり、その表情、そのたたくまいは素晴らしく、オーラを感じ、後光が差している様に見えたのは不思議だ!
(T・M)

寄稿



今思うと、私が映画好きになったのは、父の映画好きが影響しています。昭和30年代、何も分らないままバイクの後ろに乗せられ、よく映画館に連れられていったのを覚えています。

高校時代は8m/mの全盛期で、映画館に入りびたっていました。その頃は映画の短縮版がカメラ店で売られており、20代になってから自分で映写機を買って、フィルムをコッコツと買い集めていました。

長元坊 チョウゲンボウ

今冬は、窓の向こうに広がる、雪のない景色に違和感を覚えた。日本には、春夏秋冬、それぞれ変化に富んだ四季がある。

まずは春!! 春を待つ気持ちに最も寄り添った花が梅!! 寒さを破って、芳香と可憐な姿と。梅は日本の美意識に寄り添った花ですね。

そして初夏!! 頬にやさしく触れながら、通り過ぎる風に、新しい季節を感じた。また、表情まで明るく、何事にも前向きな気持ちにさせてくれる季節。

しかしこの一年、新型コロナウイルスの大流行で、不要な外出や、旅行、食事会等ままならず、心身疲弊している。
コロナ禍川柳
ぼくんちに
イライラコロナ
はやっている
「小学生」
「アマビエ」様にお願ひすることなく、新しいフラワーモチーフのスクarfを巻いて、ちよっぴり外出をしてみた。私のささやかな気分転換法!!
ちなみに、「桜は遠くで見えるもの、梅は近くで見えるもの」とか。:
(Y・F)

時代の流れで、ビデオテープが普及すると8m/mは消えていき、処分できず押し入れの奥に40数年間眠る事になりました。

母が4年半前に高齢者施設に入所し、自分の時間が少しかれました。また、親戚の伯父が入った高齢者施設で、たまたまDVD映画観賞会を開いていました。それを見た時、頭をよぎったのは40年前の8m/mフィルムでした。「ボランティアで8m/mフィルムの上映会をやつたらどうだろう?」

さつそく所長に話をしたところ興味を持っていただき、職員向けに小林旭「赤い夕陽の渡り鳥」を試写しました。フィルムの状態も良く、高齢者にとつて時間が丁度良いと評判で、鑑賞会を開く事になりました。

1回限りのつもりで、石原裕次郎「赤いハンカチ」、「水戸黄門」の鑑賞会を行いました。鑑賞会後一人のお婆さんが涙を浮かべ、手を握り「ありがとう」とお礼を述べられました。こんなもので喜んでくれるのかと驚きでした。

評判だったことから2回、3回と開催し、4回目の時に市民タイムスの取材を受け、大きく報じられました。記事を見た方から問い合わせがあり、一応弁護士にも確認したところ

問題はないとの事で、8ヶ所程の施設を回る事になりました。その後、公民館、山形村図書館へと広がり、特に大手公民館では4回もお世話になりました。

趣味で集めた8m/mフィルムが多くの人に喜ばれ、笑顔を見るのが私の生き甲斐になりました。

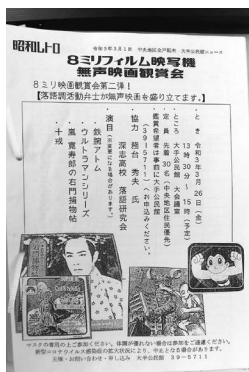
ひよんな事から、中央図書館から声がかかり、7月に東京オリンピック8m/m観賞会・記念グッズの展示会を開く事になりました。

今、8m/mを活用するアイデアが沢山あります。これからも機会があれば、ボランティア活動を続けていきたいと思えます。
(蟻ヶ崎在住 務台 秀夫)



鑑賞会の様子▲

◀チラシ



語る会 in

上土町



「昭和を語る会in上土」が3月10日午後、町会主催により下町会館で開催されました。

この会は、昭和期の写真をみんなで見て、昔を思い出して語り合う企画です。

当日は住民10名の参加があり、会が進む毎にだんだん前のめりになり、「ここは○○だったよなあ」「あそこに映っているのってSさんじゃない？確か、そうだ、いや、そうかな？…」などと盛り上がっていました。

終了後に、参加者のMさん、Nさんからご感想を頂くことができました。

昭和といっても戦前から戦後までの長い歴史の中、ご自分の人生と重なる時代の事が、今の街並みには残っていない写真を見ることが多いと思います。昭和34年伊勢湾台風後に、上土町会に嫁いで来られ、水害の被害が残っていて、市庁舎もあつて、芝居小屋が映画館になり、オールナイト上映や、パンや飴を売っている映画館もあつたそうです。また、「さい

りゆうまつり」が始まって近所の振付師Uさんから教わったこと、祭り写真のキラキラもたちは今、何処にいつてしまったのかってこともありますが、楽しいこと嬉しいことが詰まった上土は、「飲む(飲食)まち、買うまち、遊ぶまち」だったそうです。亡夫から子どもの頃、近所のWさんがガキ大将で、一緒にお城の屋根に登ったとか、今では出来ないことがたくさんあります。過ぎてしまえば、寝る間も無く忙しかったが夢いっぱい昭和が懐かしくよみがえり、気持ちがあわわくしたそうです。

取材者 生活支援員 竹川 洋子

町会紹介 松栄町

松本城の西、北松本駅の東方に位置し、西堀町、今町2丁目に挟まれた、松本の地名に因

む、常盤の松の緑にあやかつて栄える町、「松栄町」があります。市の都市計画による道路整備が行われる前の道路は、道幅は約9メートルで歩道はなく、車は東から西への一方通

お世話になりました

前中央地区 地域づくりセンター長 勝家 隆

前々任の米山センター長が、異動した時の館報に「楽しいことがたくさんあつた」と記していました。どうしたらそんな風に書けるのか、その域に達してみたいものだと思います。

とてもその域にはいきませんでしたが、4年間、外堀復元や市役所庁舎建て替えなどの変更、生活支援員の配置などがあつた中で、「おおて坂36」や「昭和の松本を語る会」、朝市、附属中学校との交流な

行でした。当時、町会には50数軒が属していて、通りの両側には郵便局、洋品店、薬局、写真店、印店、理髪店、製菓店など多くの商店が軒を連ねており、青山様やぼんぼんなどを楽しむ年頃の子どもが多かったです。信州会館での町会行事には多くの人たちが参加して楽しい時間を過ごしたものです。整備後の道路は31メートルに拡幅され、車道の両側には5.5メートルの歩道が付き、

ど、私なりに楽しい思い出たくさんできました。

わがままな私を受け入れてくださった中央地区の皆さんに感謝です。ありがとうございました。

ありがとうお願ひします

中央地区 地域づくりセンター長 上條 昭規

この4月より中央地区地域づくりセンターにお世話なっております。

中央地区の住民の皆さんが、「不安や困りごとなく、安心していきいきと暮らすため」にはどうすればいいのか」この答えを一緒に考えるのが私

車の一方通行も解除されました。片側2車線の道路の真ん中には中央分離帯が造成され、アペリアの低木が植えられています。また、市の15番目の井戸として、「松栄の湧水」があります。昔から自噴している井戸で、鉄分が多いため飲用は出来ませんが町会内の花の水やりには重宝しています。世帯数も少なく高齢化も進み、将来に問題もありますが、町会一体で頑張っております。 町会長 野村 長司

たちに与えられたミッションです。

地域づくりセンターでは、活発な公民館活動をはじめ、笑顔が絶えない福祉ひろば事業を行うとともに、職員が住民の皆さんをさわやかな対応でお迎えいたしますので、困りごと等がありましたら、遠慮なくご相談ください。どうぞよろしくお願ひいたします。



上條センター長

公民館から

今年度の公民館・福祉ひろば関係の職員です。1年間よろしくお願ひします。

- ◆公民館
 - 公民館長 高野 隆治
 - 主任 中條 克明
 - 事務職員 上條 文子
 - 近藤 真紀
- ◆地域づくりセンター
 - センター長 上條 昭規
- ◆福祉ひろば
 - コーディネーター 山崎恵美子
 - 鈴木 聡子
- ◆生活支援員
 - 竹川 洋子

